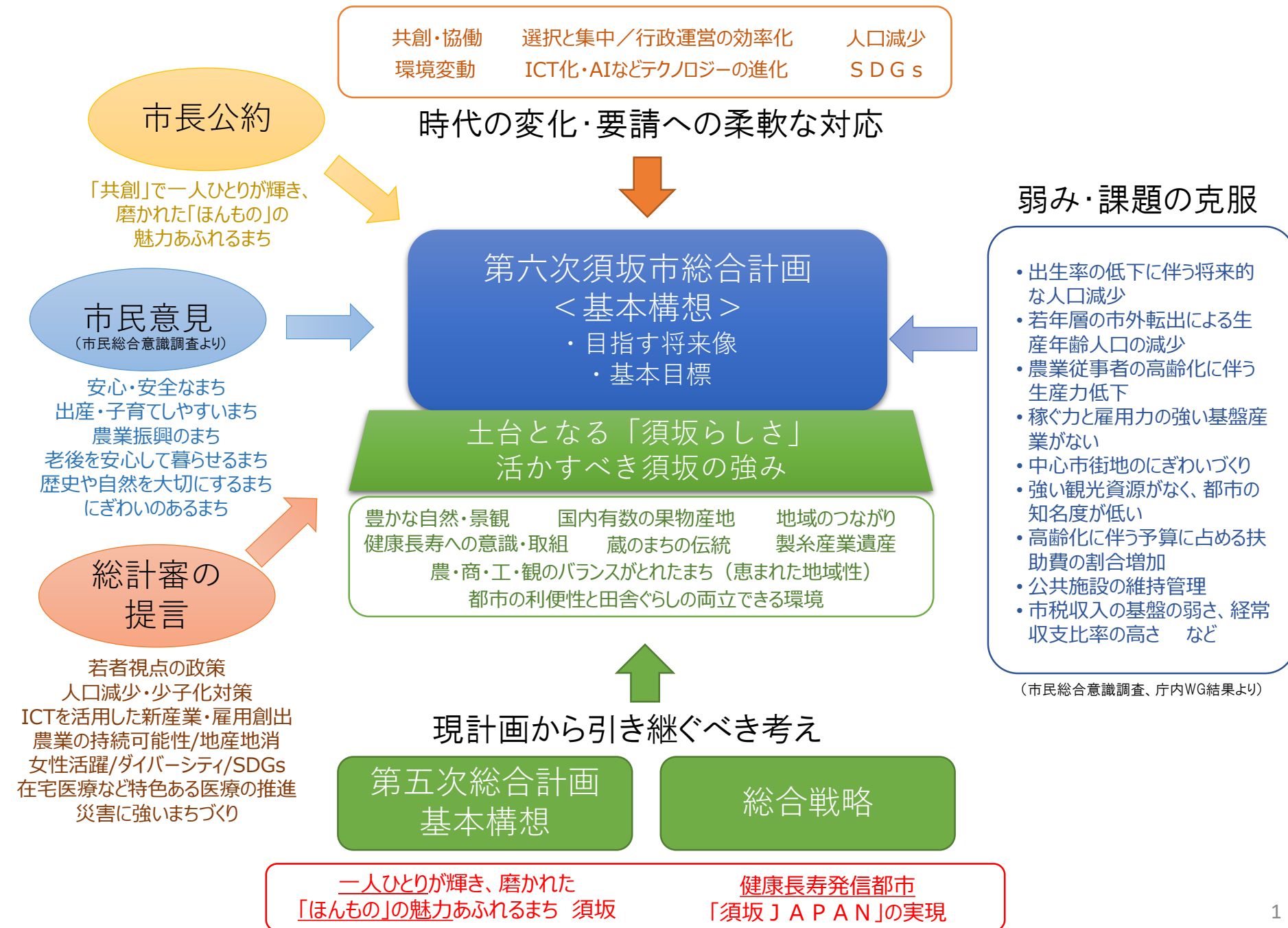


基本構想を考えるための要素の整理



新たなビジョン策定のための筋書き

須坂のこれまで

伝統や自然に恵まれた豊かな暮らしと、中核市である長野市に隣接した便利な暮らしを両立できる都市として発展してきました。

また、地域のつながりが強く保たれ、一人ひとりの健康づくりの意識や活発な地域活動が健康長寿の伝統を支え、アクティブなシニアが活躍しています。

ほんもの 健康長寿 果樹栽培

便利な田舎生活 地域の絆

いまの課題

少子高齢化による人口減少が長野地域全体で進むなか、須坂市の現状（強み・弱み）を的確に捉えつつ、将来の「あるべき姿」からのバックカスティング方式により、今後10年間でとるべき方向性を検討する必要があります。

少子化が進展し、出生率は県内でも低い水準となっているほか、進学・就職をきっかけに市外へ流出する若者が少なくありません。“須坂移住モデル”施策により一定の移住の成果がみられるものの、全国から人を集められる強い産業や観光資源が少なく、市街地の一部は空洞化が進んでいます。

果物王国・須坂として果樹栽培が好調ですが、農業者の高齢化は確実に進みつつあり今後も規模を維持・拡大できるかが課題となっています。

少子高齢化を背景に、税収の伸びが期待できない一方、医療等にかかる社会保障費は増加し続け、須坂市の財政は経常収支比率の高さが示すように硬直化が進んでいます。

限りある行政資源を集中的かつ効率的に投入し、市民の力も借りながら、いかに持続的な行政運営を行っていくかが問われています。

少子化 若者流出 市街地空洞化

担い手不足 財政硬直化

未来の変化とチャンス

時代は世界規模で大きく変化していきます。経済格差や環境問題などの解決に向けてSDGsが掲げられ、世界が一丸となって2030年までに取り組んでいくことが求められています。

国内では、少子高齢化がさらに進み、須坂市も人口の少ない地方都市として、どのようにまちを維持していくかが大命題となりますが、一方で第4次産業革命が進みつつあり、各分野のスマート化により高齢化や人手不足を解決することが期待されます。

予定されているインター周辺開発により新しい人の流れが生まれ、まち全体のにぎわいや産業にどう波及させるかが重要となります。

ICT化の進展により、人々の生活意識や働き方が大きく変わるため、地方暮らしを選択する人が増えると見込まれ、引き続き移住促進への取組が求められます。

少子化が進む一方、子育てや教育分野を取り巻くニーズも多様化・複雑化するなか、子育てしやすい環境や豊かな教育機会があることは、若い世代に選ばれるまちの必要条件といえます。

また、女性が能力を発揮して輝ける社会や、子育てしながら女性が活躍できる社会であることも必要不可欠です。

本格的な人生100年時代を迎え、須坂の健康長寿の伝統やノウハウの蓄積は福祉分野だけでなく、ヘルステック（ヘルスケア×テクノロジ）など新産業分野にも応用できる強みといえます。

人口減少社会 インター周辺開発 働き方改革

子育てしやすさ 豊かな教育機会 地方移住

女性活躍 ICT化 SDGs 人生100年時代

しあわせ

- ・須坂で住まうことの満足
- ・地域への愛着
- ・自然に抱かれた静かな暮らし
- ・安定した豊かで快適な生活
- ・健康な毎日
- ・家族や仲間との時間
- ...

いきがい

- ・全ての人に居場所や活躍の場がある
- ・地域での声かけや助け合い
- ・文化的な暮らしを楽しめる
- ・学びの機会がある
- ・高め合い励まし合う仲間
- ・やりがいのある仕事
- ・にぎわいや楽しみのある街
- ...

活力



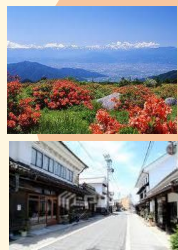
【すこやかさ】

- ・健康づくりへの高い意識
- ・地域における活発な保健活動
- ・豊かで便利な生活環境
- ・IC周辺開発による新たな人の流れ
- ・国内有数の果物産地

誇り

【ほんもの】

- ・自然や景観の美しさ
 - ・蔵のまちなみ
 - ・歴史・文化
 - ・くらしの知恵



安心

【つながり】

- ・人と人の絆
- ・地域とのつながり
- ・顔の見える関係
- ・集まる場がある



10年後の目指す姿

厳しい時代のなか、夢や希望のある須坂らしい「しあわせ」をつくる

このまちで、みんなで作る「しあわせ」な未来

しあわせの実現のアプローチとして一人ひとりの「いきがい」づくりがカギ

一人ひとりが「いきがい」を感じることができるくらしの実現

実現に向けて必要なまちづくりの視点

①「しあわせ」「いきがい」につながる3つの須坂の宝を守り、価値を高める

「ほんもの」の誇り

長い年月をかけて守られてきた暮らしの知恵や美しい自然・文化・歴史

「つながり」の安心

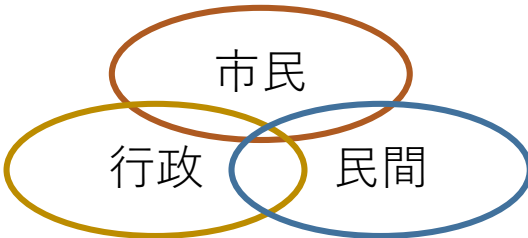
孤立しても孤独にさせない、互いに思いやる“人と人”や地域との豊かなつながり・きずな社会

「すこやかさ」の活力

健康づくりへの高い意識と市民活動の蓄積、豊かな食と農、都市の利便性と田舎ぐらしの両立

②みんなで知恵を出し合い、切磋琢磨する3者による「共創(Collaboration)」

市民の自立・自律的な活動



効率的な行政経営

最大効率や効果を生み出すための民間との協働

③時代変化に合わせた3つのチャレンジ

進化

ICT化、AIなど新しい技術を取り入れ、くらしや産業を進化させる

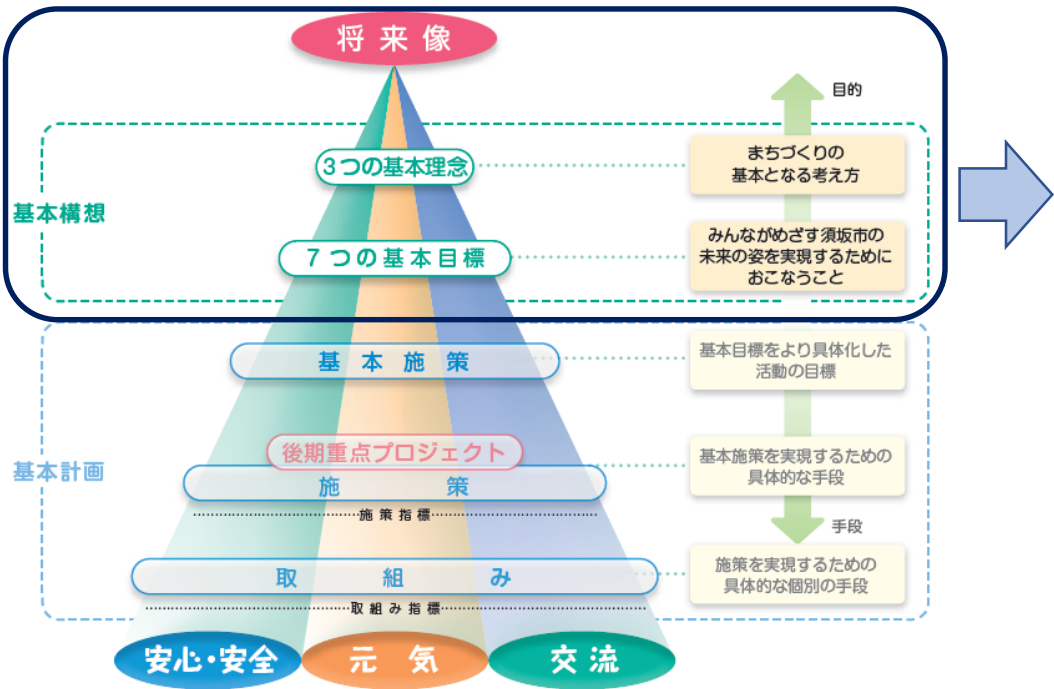
継承

地域の歴史・文化や健康長寿の取組の伝統を受け継ぐしくみと人をつくる

学びと行動

一人ひとりが自分事として日々学びあい、地域や周囲の人々のために行動をおこす

【第五次須坂市総合計画（現行計画）における構成】



- 愛称
「いきいきすざか みんなのまちづくり計画」
- 将来像
「一人ひとりが輝き、磨かれた「ほんもの」の魅力あふれるまち 須坂」
- 3つの基本理念
『安心・安全』『元気』『交流』
- 7つの基本目標

【第六次須坂市総合計画における構成（案）】

- 愛称
「みんなの須坂みらいチャレンジ2030」
（目的：2030年に向けた未来づくりの羅針盤とするため）

第五次総合計画策定当時以上の大きな変動が予想される時代の中にあっても、変化に対応しながら課題の克服に“オール須坂”で挑戦する意味を込めて愛称案としています。

● 3つのチャレンジ指針

『進化』

『継承』

『学びと行動』

愛称で表現している「変化に対応しながら課題の克服に“オール須坂”で挑戦する」ことの内容を具体化したものを3つのチャレンジ指針として掲げています。

チャレンジ指針は第五次総合計画における基本理念と同様、今後10年間に於いて、全ての分野の施策を進めていく上での共通の考え方として示します。

● 将来像

※これまでの策定委員会や審議会等で検討を進めてきた中で将来像の考え方として大切にしたい視点を要素に含んだ表現例は7ページの案のとおりです。

※言葉には無数のバリエーションがあるが、以下の視点を踏まえ方向性を検討します。

【検討の視点】

- ・『愛称』や『3つのチャレンジ指針』の必要性、将来像との整合をどう考えるか。
- ・将来像は長過ぎず、誰にでも分かりやすいことを前提にしながらも、要素をどう表現するか。
- ・「しあわせ」「いきがい」というキーワードを直接用いるか、言い換えて表現するか。
- ・「実現する」など結果を表す言葉については、用い方に気をつける。
- ・「チャレンジする」「切磋琢磨する」など、プロセス（手段）を表現する言葉をどうするか。（純粹に「将来あるべき姿」を端的に表現する方法もある。）
- ・「未来」「一人ひとり」などはあえて用いることが必要かどうか。
- ・あえて末尾に「須坂」を付ける必要があるかどうか。
- ・将来像の末尾は「～なまち（都市）」など状態をイメージする言葉で括るのがよいか。

(表現例)

案1：一人ひとりが切磋琢磨する「しあわせ」づくり都市 須坂

案2：一人ひとりの「しあわせ」づくりのために共創するまち 須坂

案3：一人ひとりが「いきがい」と「しあわせ」を実現できるまち 須坂

案4：みんなで高めあい、つながりあい、活力を生み出すまち 須坂

案5：地域の宝を活かし、新しい未来づくりにチャレンジするまち 須坂

案6：豊かで美しい生活をこのまちでかなえる「しあわせ」実現都市 須坂

案7：「いきがい」が実現でき、豊かな環境で「しあわせ」を共創するまち 須坂

案8：一人ひとりが協力し切磋琢磨する「しあわせ」共創都市 須坂

案9：このまちでみんなで創る「しあわせ」な未来

案10：みんなで創る「しあわせ」実現のまち 須坂

案11：みんなでかなえよう「しあわせ」を感じることができるまち

案12：みんなで創る「しあわせ」実現都市

※「共創」・・・単なる都合のよい協力ではなく、切磋琢磨(適度な競争)の要素を含んだもの。

→事務局側での捉え違いにより、「協創」と表現しましたが、「共創」として今後は表現を統一することとします。

基本目標（分野別目標）

※基本目標については、施策との関連性も含め再整理を行った上で、今後の検討課題とします。

チャレンジ 指針	基本目標	次の10年でチャレンジする視点	基本施策分野
進 化 継 承 学 び と 行 動	①誰もが等しく 幸せになるまち	- SDGsの理念「誰一人取り残さない」への共鳴 - 多様性を互いに認め合う共生社会にみあった人権尊重の在り方を見つめ直し、平等な機会を保障する	- 人権尊重 - 男女共同参画 - 社会福祉
	②子ども・若者 を育み、輝かせ るまち	- 若い世代の声に耳を傾け、若者が暮らしたいと感じるまちの機能を一つ一つ実装する - 低水準の出生率の改善につながる子育て支援策にチャレンジする - 成果が出ている「須坂移住モデル」を活用し、子育て世帯を重点的に誘致する	- 子育て支援 - 特色ある教育 - 子育て世代の移住促進
	③いくつになっ てもいきいき活 躍できるまち	- 市民主導の健康づくり活動を発展させ、人生100年時代にふさわしい先進モデルとなる 「須坂JAPAN」の核となる健康長寿のノウハウをさらに磨き、市民・国内・世界に発信する	- 地域医療 - 健康づくり - 高齢者活躍 - 健康産業振興
	④災害に備え、 地域がつながる まち	- 台風被害の教訓を活かし、気候変動の時代に向けて災害に強いまちをめざす - 安心の基盤となる地域のつながり（地域自治組織のあり方）や行政と自治組織の連携を環境変化に合わせてリ・デザインする	- 防災・減災対策 - 環境保全 - 自治活動 - 安全対策
	⑤一人ひとりが 学び、高め合う まち	- 市民主体の学びの活動を維持・発展させる - 人生100年時代を豊かに自分らしく生きる - 地域の歴史・伝統文化を若者が学び、次代につなげる	- 文化・スポーツ振興 - 生涯学習 - 地域学習
	⑥新しい仕事と 雇用を生み出す まち	- 果樹栽培を持続可能な高付加価値産業にする - 若者の雇用を創る - 起業の風土を創る	- 産業振興 - 雇用創出 - 企業誘致
	⑦都市と田園が 連続した暮らし やすいまち	- インター周辺開発による交流人口獲得のチャンスを最大限に活かし、にぎわいを創る - 新たな観光資源を掘り起こす - 都市の利便性と田舎ぐらしを両立できる住みやすさや魅力を発信 - まちづくりと連携した、利便性の高い持続可能な移動手段を実現する	- インフラ整備 - 観光振興 - 景観保全 - 公共交通
	⑧市民に信頼さ れる行財政を営 むまち	- 市民との対話に基づく協働の地方自治 - ICT化時代の効率的な行政運営と人手不足への対応 - 新しいチャレンジに向けた政策的経費の捻出（選択と集中の行政運営）	- 協働 - 行財政

